

## 第 II 編

### 過去調査結果の訂正

## お詫びと訂正

平成22年度以降の「女川原子力発電所環境放射能及び温排水調査結果」四半期報告書及び「女川原子力発電所環境放射能調査結果」年度報告書について、今般改めて内容を確認したところ、下記のとおり誤りがございました。お詫び申し上げますとともに、訂正させていただきます。

### 記

年度	巻号	頁	項目	正	誤
平成23年度 第3四半期	第31巻 第3号	12	ハ 環境試料の 放射性核種濃度	浮遊じん、松葉	浮遊じん、ヨモギ、松葉、
平成23年度 第4四半期	第31巻 第4号	12	ロ 放射性物質 の降下量	Cs-137が検出された	Cs-137、並びに対象核種以外のAg- 110m等が検出された
平成24年度 第1四半期	第32巻 第1号	14	ロ 放射性物質 の降下量	Cs-137が検出された	Cs-137、並びに対象核種以外のAg- 110mが検出された
平成24年度 第1四半期	第32巻 第1号	14	ハ 環境試料の 放射性核種濃度	陸水、陸土、浮遊じん、松葉、アイナ メ、ワカメ、	陸土、浮遊じん、ワカメ、
平成24年度 第1四半期	第32巻 第1号	14	ハ 環境試料の 放射性核種濃度	陸土及び海底土から過去の測定値の 範囲を超える	海底土から過去の測定値の範囲を超 える
平成28年度 第3四半期※	第36巻 第3号	24	陸土のSr-90濃 度の推移	1.6	0.16
平成28年度	第36巻 第5号	7	ハ 環境試料の 放射性核種濃度	陸土以外は過去の測定値の範囲内で あり、陸土は福島第一原発事故前 における測定値の範囲を下回って いた。	過去の測定値の範囲内であった。
平成30年度 第3四半期	第38巻 第3号	13	ハ 環境試料の 放射性核種濃度	海水及びアラメの	海水の
令和元年度	第39巻 第5号	8	ハ 環境試料の 放射性核種濃度	本年度から測定を開始したエゾノネ ジモクを除き同事故前における測定 値の範囲内であった。	同事故前における測定値の範囲内 であった。
令和3年度 第1四半期	第41巻 第1号	3	2 環境モニタ リングの結果	Cs(セシウム)-137、Sr(ストロンチウ ム)-90及びH-3(トリチウム)が検出 されたが、他の対象核種については 検出されなかった(対照地点を除 く)。	Cs(セシウム)-134、Cs-137、Sr(スト ロンチウム)-90及びH-3(トリチウ ム)が検出されたが、他の対象核種に ついては検出されなかった。
令和3年度 第1四半期	第41巻 第1号	12	ハ 環境試料の 放射性核種濃度	その推移から、	その推移やCs-134が検出された試料 もあることから
令和4年度 第2四半期	第42巻 第2号	13	イ 電離箱検出 器による空間ガ ンマ線量率	女川局及び寄磯局を除き同事故前の 測定値の範囲内であった。寄磯局に おいては、最小値が同事故前の範囲 を下回った。女川局においては、最大 値が同事故前の範囲を上回り、また、	寄磯局を除き同事故前の測定値の範 囲内であった。寄磯局においては、最 小値が同事故前の範囲を下回った。 また、

※平成28年度第3四半期分の訂正は、平成29年度第3四半期、平成28年度～令和元年度及び令和3年度分も同様

